



東  
書

小  
書  
信

子  
乃  
志  
乃  
志

子  
乃  
志  
乃  
志

乃  
志  
乃  
志





おあせんとおのぶたりみへんかみのまき

とりやまみらくほんやく

○もひみしかるひとのはあき

くまはむかあ。はあはだこころあかん。はらたちやすきひと

ありて。おゆもあきことみはらをたてて。とかく

よのひとはおのれをいからあめ。おのれをふくむらみ

おもはすることとおもひて。つひみこのよをすて

て。おんちゆうみひつこまりぬ。そのところはあかふ

いちふしのひととあくとさびききところありあが  
 かのひとははや名のうちみこやをまつらひ。きん  
 べんみちくさきくじみのあるをのみくづとあまのあよ  
 くまつはひとまはりみちどづ。つかひをあてもち  
 さたらあめ。そのこやよりほどちかきさのうへみ  
 おきてかへらあめけり。あるときかのひとみづを  
 くむとて。らづみのもとみゆき。みづををぢみお  
 きたりあが。ぢめんたいらああらぢりあがゆあ。かのみ

づさあのたをれあから、かのひとこれをとらあげて  
 ふたぐびいづみのもとみすああが。ふきいづるみづ  
 のいきほひみてみづさあまたもたをれければ。かの  
 ひとおほいみはらぢちて。たてよトいふま。はげ  
 ちくみづさあをあげうちければ。たちまうきれくふう  
 ちくたけぬ。こいふおいてかのひとはおのれがふ  
 るきくせのおこりあことをきづきて。ひとりごとみゆ  
 れはかくひとびれのあいさんちゆうみすんでも。や

つぱりこんあみはらおたつから、よのあかのひと  
ふまだはりてはらのたつのは、コリヤひとのめるい  
のではあかつたのた、みんなおぶんのころから  
であつたのだ、あてみるとこんあところであつた  
ごいたづらふくらすよりは、やつぱりよのあかへで  
ていてわがみはゆがみだけのあよくげふを  
つとめ。めるいことはせぬやうのよいことをするやう  
のころかけおいちばんいゝトそれよりふたゝびよ

のあがふいできたり、そのまよくげふみほねをりて  
よきひととありけるとぞ。

〇はるとくまとのはあま

このはあまのげんぶんはあまあり、さればこれ  
をやくするみはうたをもつてするはづあ  
れどつたではあまりくだくあければ、ほかく  
のはあまのごとく、ぶつうのぶんをもつて  
これをやくあたり



いふ おぼれめを あら、おまへさん、おかあ、もうおまへさん

はい、ア、いや、いや、これもおまへさん、おまへさん、おまへさん

おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの

り、おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの、おまへさんの

けたまはつて、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

あ、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

あ、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

うまい、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

さん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

あ、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

つ、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

けたまはつて、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

います、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

た、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

の、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん

うちの、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん、おまへさん



すから、ちつとひとあるおはひりあさつて ござぶん  
 みごらん あさいませ はいそれ はありがたう ござい ます  
 が、まづ こんぷちは おいとまを まうえ まるやう、またか  
 さねて まわり まるやう トいつて といさつ たからく  
 ちはひつ かへるて その あかお はひりあ が、おろか  
 ある はいは ふたくび くる ふさうわ 南と おもひひ  
 そか 小すみの はうふ ぼそき いど を ひつぱり おき、は  
 いをとらへて ひるめを くらはん とて ぜんごあらへ

を考て、ふたくび とぐち へいで きたり 一はいどの、はいどの  
 おいで あせへ、おまへさんの おはね は んんおゆ かきん  
 かの やうで、おめえものは もえざ やらむらさき やらのま  
 こと ぶりつばあ ことだ、おまへさんは おつむり、ふわけ  
 くり を かけて おいで あさる、そあて おの は すごや  
 かで こんごうせきの やうで ござる、それ み ひつかへめ  
 たあ の め の ま あんご、あまり の やう みくもつて  
 ござる トつあやう たらぐ の ことば さきく て、かの

おろかあきはいはたらきとびきたりてそのはね  
をうんととひごかせつゝ、なんぐとちかづきよりか  
のくものゆるたくみあることはつゆえらず、おのが  
まゐこのすぐやかあると、いろのうつくまきと、わげく  
りのりつばあるあどふほこりつゝ。うかくとちか  
よつたところ、まらまらけたるかのくまほ、たちまち  
みとびかくつて、はいせとらへ。かのまはつたるた  
んばあごより、くらくものすぐきあゐのちちへ、ひひこみ

たりあが、はたゑてかのはいはふたぐびそのた  
んばあごせくだらざりあ

このはあをよむこどもたち、よろあくつゝあやう  
ぶまどはなれて、みをあやまらぬやうこゝろかくべあ  
もあひとことばをたくみふあてあざむかんと  
はかるとも、みこをふさぎめをとぎて、このはい  
とくもとのものがたりをおもひいだすべあ

○あやうとあざむかんとはいあ

あぶらむとむむりとはきやうだいふてあるたふあ  
 ゐでんぢをもち、これをたがへすふもしちやうの  
 からすきをもちつてあ、これをたぬまくふもあひあ  
 らんでまきたりあが、すでふあきふいたりてその  
 いぬのぶゆくあたりければ、またあひともふ、これを  
 かりとり、これをとうぶんふむげとりて、おしく  
 ふもちかへりぬ。そもくこのあぶらむといふひと  
 は、すでむつまをもちてあちふんのあんあをまうけ

たり、あがるふむむりといふひとは、いまだつまを  
 むかへぬば、こもあくて、ひとりぐらあふりけるが、いま  
 だかのいぬをもちかへらざるまへのことある  
 あるよむむりがひとりぬのぬやのうちふて、さくえ  
 きのさんようあつく、そのきようだいあるあぶらむ  
 のぬのうへをかんがへて、ひとりごと、わあはかうひ  
 とりぐらあふれ、あぶらむはつまもありて、こは  
 あちふんまでもあるあれば、ものいりもおはからう。わ

表はひとりみのこと 忘ればふみかみついでついで  
 へがあいのふさくえきをふたつわりみわけたもん  
 みやア、どうもたうりふあたらあひ、トリヤ、これからお  
 きてでんぢへいき、あひこのわけまへみ、わざの  
 わけまへのうちから、そへおいてかへらう、ア、そうだ  
 ー トぬやよりおきいで、おひあめふほあ、たふあひ  
 あるでんぢをさあてゆくをりあもつきはくもま  
 ふか、やきてこのははかせみうち、そよぎ、さびあき

やまのほそみちを、つきをあかあふたどりつ、のやう  
 ー からのでんぢふいたり、あのがわけぶんのうちよ  
 りあて、みかさねのいぬをとりに、これをあぶらむの  
 わげぶんふつみそへおきていへみかへり、たのききゆ  
 めをむすびけり、こころはおあおあぶらむも、ぬやの  
 うちふてつくぐーと、わがみのあやせをかんがへ  
 つ、あむりのみのうへをもおもひやりて、あ  
 ひとほさるもあければ、ひるはあごとをたすける

ちのあく、あるはむふあきねやのうちひとりねをす  
 るであらう、とまたちとてはわればかり、おつみかあ  
 いさうあものでは、ある、それみひつかへわれはま  
 たいかあるああはせのい、こと、さくも、あはは  
 こもありて、たすげとあるから、たいぶんらくた、それ  
 ふかのさくえきをてうどはんぶんわけふあた、せん  
 おや、てんたうさまのおそれがある、ドリヤ、これから  
 おきてでんぢへい、いきのわがわけぶんのうちよりあて

あのひとのわけぶんへたあ、おいてかへるが、い、  
 ア、そうだ、といふま、み、ねやよりおきいで  
 おびあめあはあ、でんぢをさあてゆくをりあも、こ  
 のはみ、そよぐ、やまかぜ、み、たあびく、くものたえまよ  
 りか、やく、つきをあかあ、みて、こころもほそきつぐら  
 をり、たどり、てでんぢ、みく、だり、おのがわけぶんの  
 うちよりあてみかさねのいねをとり、これをどむり  
 のわけぶんへ、つみそへおきて、たちかへり、たのあきゆ

めをむいぶふるべま。かくてそのよもあけはあれ  
 あさひののぼるころはひふかのきやうたいはふたり  
 ともでんぢふきたりていぬをみるふさくやまさ老  
 くわがいぬをかれのいぬふつみそへおさるふ  
 ちとのとはりでありければ。たがひふそれといはぬ  
 どもこころのうちふおどるさゝかむむりはその  
 よもでんぢふいたりふたぐびおのがわけぶんより  
 みかさぬのいぬをとりあぶらむのいぬふつみそへて。

こんやはたぢふいへふかへらず。つみたるいぬの  
 かげふかくれ。やうすをうかぐひわたりけり。かくと  
 はあるやあらくもの。たえまふつきのわけさゝて  
 やまかせむせぶすぎむらのをくらきみちをたどりつく  
 あぶらむもでんぢふきたり。かあたこあたをみまはる  
 あむら。わがわけぶんのうちよりゑて。みかさぬのい  
 ぬをとりむむりのいぬふつみそへて。たちかへらん  
 とあたりふを。むむりはたちまちたちあがりて。あぶら

むのてふとりすがりそのかほふすひつきて、うれあ  
 あみだふむせかへれば、あぶらむもこれをみて、た  
 かひふことばもあかくみ。いはぬはいふみまなり  
 たる。ふかきころをあらはれける。

○まんぶんぐきてんをもつてとまたちのきふんをた  
 すくるあはあ

まんぶんぐといへるとみたるきふんあめりかのあはいん  
 ぞふありてあるときふたりのとまたらとうあはを

あびんとて、かいへんみいでたりあが。りやうふんの  
 とまたちは。すでふうみふいりて。や。おきのかた  
 ふおよきいで。すわちゆうふてたはむれぬたるふ、まん  
 みんぐはいまだはまふありて、ふとかいあやうをあが  
 めあところ。いとおほきあるふかありて、みのあやうさ  
 をもちあみふうきつまづみつおよぎぬるふたりの  
 ひとをうかぐひわたり。かゝるきころのときふあた  
 づて、ものかんがへもあらずあてころあはたぐあき

ひとありせば、ソリヤふかばきたトしふべきを  
まんぶんぐはありよふかく。このころのまくたるひとあり  
ければたちまちきつとおもへらくもあありのまゝ  
あらせおびかればはいたくおどろきおそれどをうあ  
おひておよぎえずのがるゝところものおれえおと  
ころをきつめとあらぬていふて、そでどけいをさあ  
あひて「コレ」きみらまくあさり、いちばんはやくこゝ  
はまへおよぎつしたそのひとみ、このとけいをは

あげるのたトこゝろたかくとよばれば、たれか  
おくるゝをこのむべき。おれいちばんはおよぎつかんと  
たちまちはまのかたふむおひちからのわざりのせい  
かぎり、ぜんごをあらそひおよぎくる。ふかはさきより  
このひとぐをとらんとおもひてまづくとやうく  
ちかづききたりおがしまこのふたりがはまをさあ  
て、およぎかへるをみるより、おがさあものとや  
おもひけん、やをいむごとくおひくるとも、あらぬふ



たゞはひたすらふ。およぐとすれどやうく。みちから  
 つかれてみゆれども。ふかはますく。いきほひはげよく  
 おつかりきたるを。あがめよる。まんぶんぐは。あやうさふ  
 とどろくむねを。おもあづめ。あはしすみやか。ふおよだ。  
 あめん。と。ころふ。あらぬ。わらひ。ごき。コレみあせへみあせ  
 へ。このとけいは。ろんごんで。ひやつぼんごで。かつたの  
 だ。これ。を。ほ。あ。い。と。おも。は。あ。い。か。は。やく。く。ぐ。づ。く。い  
 て。はい。け。あ。い。ヨ。ト。は。げ。ま。さ。れ。て。ま。は。ま。よ。り。は。

あほほどとほきところふ。ありて。はるのむ。といふ。ひと  
 りのひとは。す。で。み。ち。から。も。つきぬ。と。みえ。て。お。よ  
 ぎ。く。ら。へ。を。や。め。ん。と。す。る。こ。ろ。ぞ。ま。ん。ふ。ん。ぐ。の。あ。ん。つ。う  
 する。と。ころ。た。ち。ま。う。と。あ。を。ふ。り。た。て。て。は。る。の。む。は。る。の  
 む。あ。ん。で。そ。ん。ふ。み。い。く。ぢ。が。ぬ。へ。エ。く。ま。つ。と。ま。つ。か  
 り。あ。あ。い。か。り。こ。く。で。も。ひ。と。つ。ふ。ん。ば。つ。あ。た。ら。さ。つ。と  
 お。ま。へ。が。か。ち。た。ら。う。オ。ク。あ。ら。い。そ。う。だ。そ。う。だ。ト。は  
 げ。ま。す。こ。ゑ。を。ち。か。ら。み。て。つ。か。れ。あ。て。あ。あ。を。は。た。ら。か。せ。

新編 源氏物語

三

一四

およぎきたる そのあとふつかのおほぶかのふるひれは  
ひふかくやきてすさまじきをみほもきつがずかの  
ふたりははまふつかんとするせりおもおほぶかも  
またせまりきてはらうちかへおもひとびふいと  
びつかんとちたりけり)ふかのものをとるときは  
かみらずほらをかへきてくらひつくものとふふこ  
れふかのくちははらのかたふあるがゆゑふり)  
このときまんぶんぐはらみふとびいりつゑをうち

ふりてふかをみひつかれふたりをたすけあぐれば  
ふかはえものをとりそんざていられるさまみてそ  
のひれみていあみうちちらすありさまをいゆびざあを  
めせばかのふたりははむめてきふんをのがれを  
ちりいまさらおどろきとをうゑふひうちたをれ  
てふるひのたりのこれふよつてかのふたりはたがひ  
ふこのことをあひわすれずこころきいたるまんふ  
んぐをいのちのおやとぞかゑづきける

○りちやるど ふうどれすの はぬあ

いざりすの りんこるんあやあいるの かいがん くれいんぞうるふ  
の きんべん ぶりちやるど ふうどれす と 何入る ひやくあや  
う ありけり、この ひとは すぬんの あひだ。あんせんせ  
あふぬの あふこ。ああるいは のりあひの ひとぐ を。たす  
りあぐる こと をもつて、おのれが つとめ と ああ たり  
りり、あがあ あがら これを あすふ あんらの たうぐを  
もちゆる こと あく。また これを たすくる ひとも あく。

たど いまきの うまを もつて、あなあみの さかぶのり  
いれ。おぬくの ひとを たすけける。そもく この ひ  
との たがへす とちは。あらいそ いはは ふへたて られ  
て。ほこんど はあれあまとも いふ はかり みる。いざか  
のとちふ あてりまづまき ひやくあやう かりけれども。  
ひとの いのちを たすくべき たつとき つとめ をあふ  
ひきうけたる、いやあむべからぬ ひとふあて。あみかどは  
げあき ひよりみ は。い入の やぬのてこまど よい、とほめ

がねをもつて うみづら を みわたる。もとも ふねのあ  
 らいそ ふちがづきて あやうき やうす を みる ときは はのよ  
 る ひる の きらひ なく われ と わが みふ ひき うげ  
 たる つとめ を ぶさんと 志 たり けり。ある とき いつさう  
 の ふね あんぱう ふ あひ。あす べき すぐ も あらふみの  
 さかまく あか ふ たごよひ の 志 ふ。たれ あつて これ  
 を たすげん と する ひと も あければ、せんちゆう の ひと  
 ぐ は いのち は すで ふ べき ものと おもひ あきらめ

おたりを が、おもひ も かけず ぶきより、ふね を めどる  
 て くる ひと あり。これ を みれば うまふ のり たり。こ  
 れ すあはち べつぞん あらず。が の りちやるご ふうどれす ぶ  
 て がね て あらふみの あか を のり まはる べく、を あへ  
 こん たる ところ の うまふ のり、せんちゆう の ひと を  
 たすげん と。あみ を 志のぎ て きたれる が、さか だつ あ  
 みの うち かけて、まき いれん と する ときは、志ばあ  
 の あひた たのらひ て、あみま を みて は とび いたず、う

まひとひとのはたらきもたどひとずみおもひた  
つころひとつみよるものみて、そのはたらきの  
むあからず。あんふくふねふのりつけて。みさんみん  
のふあのをば。おのれがあとみおらせつころこれを  
りくちへたすけあげ。ふたたびうみふのりいれて。ま  
たそのほかのひとをたすけぬ。そくかくのこと  
き。あやうきわざあひををへこむはまことみおどろく  
べくおもはるれど。あつはさのみむつかきことふあ

らざるべき。あうたれすか。うねみくふはわれはい  
かあるあうまふてあみづのあかふてはあう  
ふとりあつたふべき。すてうまといふもの。はみづ  
のうちへのりいれて。そのあもすきてあやま  
たすとき。はちぢをまつてふねをとりあつかふ。ま  
うやう。たづあふ。またがつて。あうあざい。みあるもの  
ありといへり。さてそのうちいつせんはつぴやくさん  
あふさんねんみほあうねといふふねのあんせん

せあときま。かのりちやるとはれいのごとく、あらうみ  
 ふうまをのりいれ、ふあごどもいのちをたすけぬ  
 こゝと世のうらなよじて、のちみくすあうこ  
 くの老んけいあかまより、そのときこうをさよう  
 こだてたるかきつけをゆたされたり。このかきつけは  
 ひろくよみあらせてまかるべきこうばふをさるせる  
 がゆゑ。いまこゝみこれをさるせり

いっせんはつぴやくさんおふさんぬん。はちげつさんおふ  
 ちぶち。りんこるんあやあゆるのかいがん。とんおのるくの  
 きんへんて。ほるあぶらねあんせん。ふあびあところ  
 りちやるとふらどれす。あるひとのゆりきと。おんあ  
 のこゝろとみよじて。そのふねのふあご。あ  
 のまさみうをのほらみはうむられんとするを  
 たすけたり。このときあみあらくかぜはげあくあ  
 て。ちかふばうば(ちかふばうと)といふはあみうちい  
 りてもあづまばるやうひくりたあごがぬみて。

ふんせん ぶどの とき ひと を たすく ため みつ かふ  
 もの あり) すら も おろす こと あたは ざり あり かく  
 る あら ぶみの うち ふうま を のり いれ て、 みの  
 あやうき を つかへり みる みる まい おほり ぶめ が  
 たう の かん ぶ おもふ ところ あり、 これ み ようて  
 いったう 志ゆうぎ の うへ、 ねんく その とき の むかは  
 り の 志ゆうぎ ぶ め だる り おん(かね の ぶ) を おくる  
 を ぢようれい と 志て その めいよ を あらは さんと 志

その のち きんねん の こと あり 志 が ふうど けす は また  
 ぶね の せん あやう と その つま あら び ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ  
 ぶ ぶ ぶ を たすけ たり、 その とき は うま ぶ たすけ の  
 せも も あり、 また あぶみ ぶ すがりて あがれる も あり 志  
 と いふ の とき ぶね は すで み よこ み かへりて  
 ほづ あ その ほか の つぶ ぐ は み あ あみの 志 た ぶ  
 かくれ たる が 志 志、 り ち や る 志 は これ み ち ち より 志  
 とき は ぶ かく よう ぶ ぶ 志 たり と 志、 これ は 志 志 と

昔かくのごときばあひみてゝあんなせせもことのあじ  
 ゑがゆるありあるときふうどれすはふたりのふあこ  
 をたすげ。あきさみむかづてかへらんとせもみうま  
 はすこゑもうごかさればあはくこれをもすくまゑめ  
 んとふあげれどもさらみしつぼもすくまざりもが  
 みづのうちあるつあふうまのあゑのわくれるこ  
 とをとりたりこのときふうどれすはしかみか  
 あゑつらん。かゝるあらあみのあかあからからうまて

うまよりありあゑをもつてつあをあげかく  
 のうちよりこがたあをとりいだるみづのうちへ  
 てをさるのべうまのあゑふかどりたるつあをさ  
 りすて。あんかくさすかへりのりかへりあま。さかまく  
 あみのうちあははあかくようらのことあらざりあ  
 とあまらべあ  
 あゑもうひとたちふうどれすをうやまふべあ。むかあ  
 あと(むかあせんごくのよのむらみ)もうま



みのりぐんこうをあらはるたりといへどもその  
 あすところふうどれすがごときおんあいのみちふ  
 あらず。みのあやうきををかへりみざることはお  
 めどけれども、かれはひとをころる、これはひと  
 をたすく、あかれはふうどれすのあすところははる  
 かふむかあとのあゆとふまさぬりとしふべあ  
 ○あいのかけあるのはああ  
 あるといぬやうあそびふいであときゆふだちふであひき

んぺんりいへふかさやどりをふせあふ。そのいへの  
 こともらはんたいふうちむかひてからすむぎのこ  
 をかゆふたきたるをひとつのはちふうちもりき  
 さもうまげふくらひのたるがそのかんあよくは  
 いつれもいばらのはふのくけあのあるがごとくふ  
 あてむびやうたつあやあるあはるをあらはるたりあ  
 かばあかのたいみやうはそのはくおやふうちむかひ  
 あのこともらはあふふそさうふかべものをくり

てさもうまいやうすで。そうおてそのうへ。あ  
あみぢやうぶあのはうぜんたいどういふわけあもの  
とありますか はうこれはいろのかけあるをい  
つもたべものうへへかけてたべさせますから  
のこととございます。まづだいごちのかけあるとまう  
あまするは。あのこととふまごをまうあつけま  
てまいふらいつぱんだけのまうげをいたさせます。  
だいみやうへあるほどそうかをとてだいふのかけあるは

どんあものた はうごぜんさきのほかは。ちつとも  
ほかのものをたべさせません。それだからあのと  
ほりはんだいへむかつてすはりまゑたときふは。  
あふがああふおあかがすいてございますものだ  
から、どんあまづいものでもおのあうたべますので  
ござります だいみやうシテ だいさんは はう だいさんの  
かけあるとまうすは。ものをふそくふおもはぬやう  
のあらはあみそとてとてございます。そとてあのこと

もはおいまいたべものやくわもあどのあぢはひはぞ  
んぞませず。あんあまづいものでもおふぶんおあふ  
てをりまするいでございます

はたらきてはらをすかせて。たることを。

あるよりうまき。あぢはひぞあき。

○ひやくかあるいづみのあぢ

あつきあつひふ。うのれむといへるごども。あらはこり  
のたつたるみちをはありかから。あぢさふそのあは

はあからみて。はあはだのどのかはきければごう  
いひやくいみづをひとちのみてへもんだい  
ひつ。いそいでゆきあところ。みちのまがりかぢあ。  
かあ。きのあぢりあひたるかぢあ。あみづありて。  
いはひまよりぎんのごときひかりをはつあてあ  
がれいでたるが。そのうへふふだありて。うづあ  
ごどくあるあたり。

たとへえんあよふたへあたくとも。あばらくこのこ

あぢはひはぞ  
三

かげふやすらひ。やゝすべしをば入てのち。この  
の老みづをのむべし

うわれむもかぬてあつきときみひやゝかあるのみもの  
をのむはようちからざること。はきくたりけれど  
せいまつほこつたること。ふて、このふだのぶんを  
みてあざわらひ。このはうはたいさうのどがおかほ  
まある。あみがみづをのんたところつてがいふ  
あるものかトわがみがつてのころふまかせ。後

あいまくみかのひやゝかある老みづをのみたりし  
が、はたあてやまひをひきおこる、たうまちちあやうふ  
うちたをれあが、やうくみたすげられていへみ  
かへり、それよりはげあきぬつびやうみおちいり、いのち  
のほどもはかられぬばかりふて、ぬやのうちふて  
うめきあがらきれいあちみづのあかふ、あんあふど  
くみあるものがこもつてゐるといふことをだれ  
がかんがへたものであらうかトいふをうわれむ

のちくはこれをきいて「イヤ、こあたのびやうきの  
もとのおとりといふは、きれいなあみづではあ  
いのだ、こあたのわがま、あとかんねんのえせあ  
いこんぢやうとがそのやまひのみあもとだヨ  
」とぐめあへずこころのまゝののみくらひ。

かみのたまひあ、みをぞそこあふ

○やぶさかふるひとのかへるさるのはあま

きんぎんをあひあて、これをたくはへ、わがみのた

めふもこれをつかはず、またてひとのためふは

これをもちあず、たぐあるがうへふもこれをため

んとするひと、これをやぶさかあるひとといふ、ぞく

ふ、これをあはんぼうともいふあり、こくふあるやぶ

さかあるひとありて、まづあきひとのほごああどあ

はいちまんのかげほご、いたさぐるほご、まはかり

けるが、このひとあるときともちよりいつびきの

さるをかひたり、あかああがら、おのがかひたるあたい

よりたかくかほんといはば、ふたぐびそのともだち  
ふもこれをうらんといふほどのおんぶつあり、ある  
ひこのをこのるすのあひだふ。さるはかねばこ  
のうへふいばじのきんぎんをつかみいだるこれをもど  
よりまぢあかへあげいたるければ、これをみてお  
ほぜいうちあつまり、おのれおほくこれをおんと、おあ  
あひつきあひ、あらそひとほぎあがさるはあきりふか  
ぬをおげいだるて、かねばこほとんごからふありあこ

ろ、かのやぶさかあるひとかへりきて、このありとも  
をみておほいふおどろき、<sup>エ</sup>ばかものめトいふ  
まくぶのこぶあをみざりかのさるをうたんとせあ  
をりあまゝとふりのひとのいりきたりて、<sup>ア</sup>コレ  
〜おまへさんおよあふせへ。あるほどこのさるの  
やうふ、たいせうふきんぎんをまちあかへすてあま  
ひますのはのぢつみばかともあほうともソリトモウ  
Sマならいふまでもあまだが、あかあ、あつたらきんぎ

んをほこのうちへあめこんでおして。ちうとまよ  
のあかのまふあはせふいひとみくらべちやア、よ  
うばままだといふものだ。

いへとみて。ぬふいきほひのあるひとは。

ひとみもさちをわかたさうめや。

○ひとみあひせらるゝひぢゆつのおはあ

ごんとる どうとどりうちといへるひと、そのむすめの方  
くさいばかりあるものふ。ひとみあかのむすめをあ

いするはいかあるゆゑごとたづねければかの  
むすめのこたへふゝわたあはたあかふごういふわけ  
ともぞんぢません。がこれにはわたあかみんあをあいま  
ますからだとぞんぢます。トいへりとぞ。これまこ  
とふひとみあひせらるゝのひぢゆつふり、ねがはくは  
よのこどもたち。いづれもこのひぢゆつをふこあふ  
べあ。かみらずひとをあいま。かつひとみぜんをあす  
べあ。かみらずひとみあんせつをつくるひとのつみ

をゆるすべく、かつひとををねむべからず、ものごとふ  
つとむべく、やぶさかあることあかれ、またれいぎをたぐ  
まゝくすべま。おのれさいはひをえんとおもはば、ひと  
ふさいはひをあたふるよりよきはあま、またおのれひ  
とみあいせられんとおもはば、かあらずひとを、あい  
すべきものあり。

のぞまん せま ことま の はあま

わががつかうづれふちやあれすと、いふことまありて。

このこはわがとまなら、このみあいする ことま  
ありあかま、ひとつのあまきくせありて、ぞまんする  
こと はあはだま かりあ、かれつねふいへらく、われつは  
うと かつあをまつて、いさふいで あば、かあらず  
たいこう、をあらはすべま、と、かれまたいふ、われは、この  
がつかうふおいて、ものともよき たまうちばうを、もてり  
またもつともよき、こがたあを、もてり、わがちくはこ  
のくみふて、だい、ちのぜんふんあり、わが、いぬは



このくみだいのちのりやうけんありと、ほこりある  
あるひわれぶつかうへゆきあるちやあれすあらびふ  
そのいもうととどうだうあるり、そのひははあはだ  
あたにかありまかははやまのかげをとほりてゆき  
あふちやあれすのいもうとはへびをおそるくよまは  
あまければちやあれすナニおまへへへびはおそれるふ  
あよばふいもあへびがあつたあま。すぐといを  
ぶつつけてうちこそあてくれるだらう、だれがへび

ふおそれるものかゆまはへびのすをもてあそび  
ふするであらうといふから、われちやあれすふいへら  
くへあまおまへでもらあてるすねえき(あめりかふあやう  
ずるいつあまのへびふあて、いがるときはそのを  
のひどぐごと、せみのあくがごとあ、あまこのへびふ  
くはるくときは、ひとたちまちふあす)ふはおそれる  
だらう。すだふあまあてのくま、あつた。このま  
んぺんのつけがきのまどで、らあてるすねえきふくはれ

あまのいへへ  
三

ておんだひとがあつたぜ ちやあれす  
 ちやあてするすぬえき  
 がおそろあいのナニ ちやあてするすぬえき くらわあものをぶ  
 ちころあてやるのはかをころすよりもやすいこ  
 とだトそのことばもいまだをはらざるうちふそ  
 のいもうとが「ヲ」あふさんみちばたをころん。アレ  
 きをおつけドさげむ若からちやあれすはあちとを  
 みたるふへびあらんとおもふものありければ  
 たちまちいままでほこつたるいきほひふひつかへて

キヤアトハここゑさげひあがら。すぞつひきのらあてするすぬ  
 えきふおはるくがごごくばうあのおつるもかへりみ  
 ず。はるいのめさへみげたるがそのものはへび  
 ふあらずあてむちのひものおちたるありけれ  
 ば。ちやあれすのいもうとも。あれも。かれも。みげたる  
 をみてわらひけるふ。かれもまたそのあやまちを  
 ちりてかへりきたりぬこのときより。かれはもの  
 みほくるあちきくせをつくあひやうありたりとい

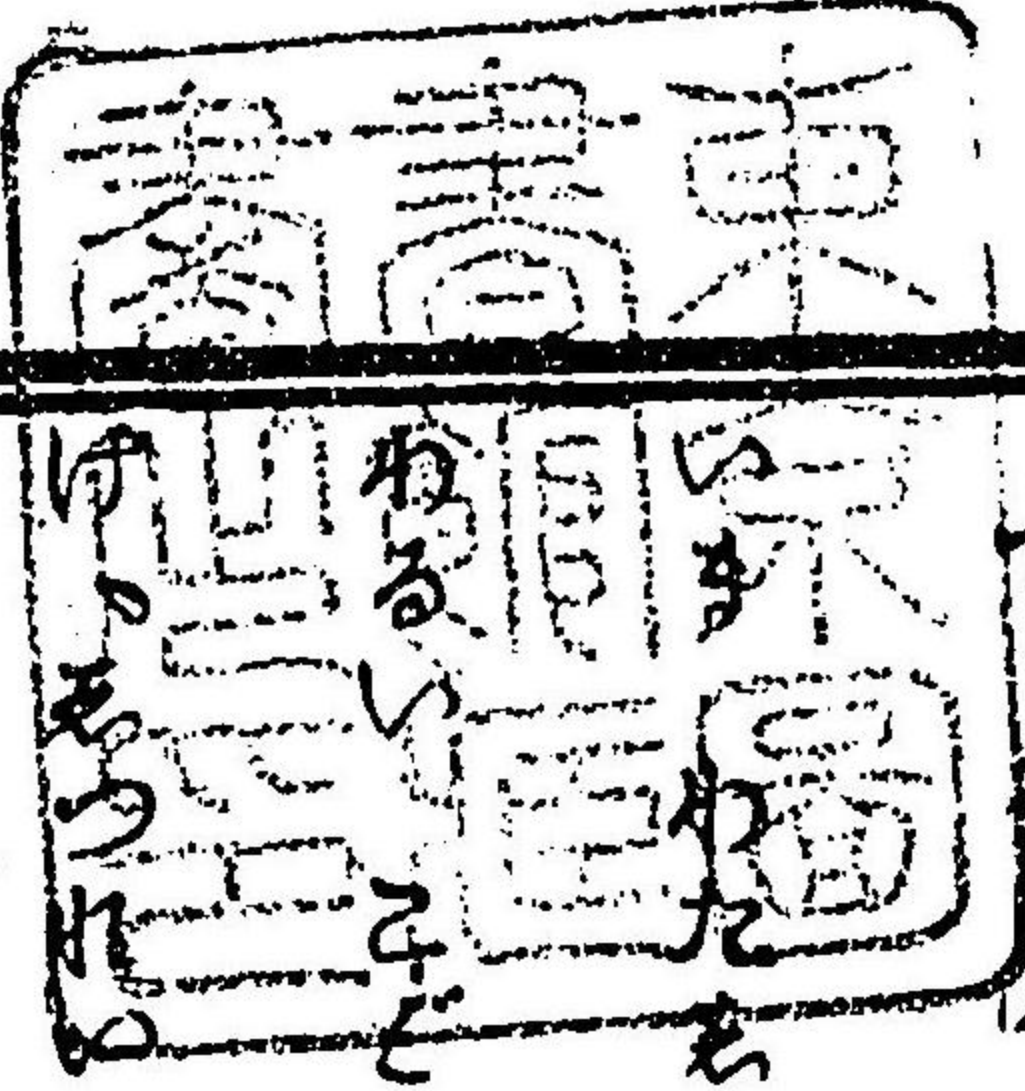
ふ。たいていおまんするひとをみるふ。いづれもかく  
のこごさ おくびやらあるものあり。このうち西れす  
がこごさのふおまんすることあるときはそのい  
ちうとはかれがみくふくちをよせとむちのひも  
をおわすれか。さくやげば。かれもこれまでのど  
とくはほこらどりあといへり。

おあせんととりいながらいふへんかみのまきをほり

おあせんとものがたりみへんあまのまき  
とりやまひらくほんやく

○おあせんのうちごのはあのはあ

へぬりといへるこどもはあはだはらたちたるありさま  
て、そのはくのもとふはありきたりて、おかアさん  
がまちをとほつてまわりまゑた。ところ。  
おあせんのこどもがこごさのまゑて、わたるふいふをうツつ  
せんばんあことをいひまゑたから、わたる



はをとお 志く、ゆるせと まう志 ま志 たれど、いつかう  
きくいれ ませ あん だ、おとつさん が おいで あら、あいつを  
ひどの め ふ あは志 て はら を い ま志やう ふ、は、お  
まへは その こども ふ あんせつ を つくさう と は おも  
は ふい か へぬり「ナニ 志んせつ も あふ も いつ た こと  
ぞや、ごぞい ません、あいつ は たいさう わるい やう ぞ  
ぞい ます からの あん ども 志かつ て やら あげじやアあり  
ません、も志 わた志 が ひとり あ ことを 志ます とのおかア

ん が わた志 を お志かり で ごぞい ます もの は、ハイ  
志か志、め志 は おまへ ふ たご志い ことを 志志へる のだ  
その わるい こども は さだめ て い、こと や、たご志い  
ことを 志志へ こん で ふく、むやみ あ ことを 志志たり、  
志つれい あ ことを 志する あらほ志 ふ 志だて あげ たの  
で あらう、マア ちよら 志、こ、へ すはり あせ入、おまへ、ふ  
はあ志 を 志て きかせ、ま志やう、め志 が まだ むすめで  
あつ た 志きの こと だが、志志ん ば入 の ことばあ が

たいさうすきであつたが、そのうちでもいちごの  
 はあがいちばんすきであつた。いけがきのもとも  
 いちごのあつたのを、ひぐ、みおがめてたのちんで  
 わたところ、ちいさいつばみ、ができて、それが おほきい  
 ちろいはあみあつて、あつ のひかげふ、さき、みほう  
 たが、そのはあがあつたあとへ、ちいさいあを、み  
 ができたが、だんどくと、おほきくあつて、あまひ、みはあ  
 か、うつくしい、みが、ぢくから、ぶらさがつてあつた。

そののち、とちのくれがた、あ、そのいちごのは、入  
 ところを、とほつたことがあつたが、そのおぶん  
 は、いちごのは、もちり、はあ、もあ、い、ころ、で、ひご、もく  
 いちごのことを、あんと、も、おもは、あかつたが、つ、みと  
 ほり、かくつ、たから、このあつ、か、ぶ、のふえ、た、いちご  
 の、か、ず、を、か、ぞ、へ、て、み、て、わ、た、と、こ、ろ、お、も、み、も、か、け  
 ず、み、と、つ、の、は、あ、を、み、つ、け、た、あ、ん、と、ぢ、ぶ、げ、つ、と、ろ、ふ  
 さ、い、た、は、め、じ、ら、き、ら、い、の、で、は、あ、い、か、こ、れ、を、あ、つ

げたときのうれさど、おもしろいとおぼすもとびおぼつたくら  
らわであつた。てんきもことふあたくかであつた  
から、ずわんぬをむすぶ。だらう、そうあたらはくさん  
のどたんぢやうび、あつはくさんふあけるふい、ものた  
とおもふて、まいみちまいみちそのはあをめてゆ  
たところ、そのはあのおぶんふひらけたおぶんふ  
たいさうさむいよんがあつて、そのあくるあさみ  
たところ、あろい、はあびらのうへふ。ちよいとくろいほ

つちがみえてあはれたやうすであつたか、その  
またのひふとうぐあへてあまつた。そのこ  
きのかあまさはりどうもいふほかのことであつた  
ぜんたいそのいちごのはあは、いつたいのはあ  
あちげつごろふさくおぶんふは、さかかくて、おぶげつ  
ごろまだあせさかすふおたのであらう、しまおあ  
がむやみふぐゆんぢあまきこどもをみると、おゆのみ  
ふさいたはあのおつのみをむすばふいことを

おもひだすヨ ばあせ ば へぬり 一 そのときおかアさん  
はたどかあゐいとおもふたばかりで おはらはおた  
てでござらん せんたで あり まあやうに 一 いふまゝの ばあ  
のかほ ぶすひつまで 一 わたあ はありの うちどの  
はあで ござります。そう まで あ の ござも はあゆの  
ひの ちむい かぜ ぶさした はあで ござります。さす  
れば。あ の こそ かあい そうだと おもふ はずであ  
つたの ぶ。はら を たてて かねい を まやうと おもふ

たのは、わたあ が ゆるい ので ござい まあ た、さつさ  
まう あた ことは おゆるあ あさつて くださいませ。わた  
あ は おそびさ の うちどの はあ を よく おぼへて ねす  
礼 ません

（みたり ぶみと を うたがふ べ からなる はああ  
ある きんざいくる。たつとき ぶぞん より かごり もの を つく  
る ため。さまぐ の たま を うけとり たる が、その であ  
ふ、ろべると こと ぶもの ありて。この たまの うち

ふ、ことふうるはまきひかりのあるひとつのたまを  
みてはあはだこれをおいあ、たびく、これをしてふと  
りてみたりあが、あるひあるおかのたまをふたつ  
うあひて、かのであのおすみたるものあらんと  
たがひて、そのぬまをあらべみまふ、たんすのうあろ  
ある、かべのあふ、そのたまをみだあたり、され  
どもろべるとはけつあてこれをぬすみたるおぼえ  
あまとあらがひけれども、あるおはあかきく、きく、いれ

ず、まびあくであをあかりつけて、いへよりおひいたあ  
たりけるが、そのよくあつまたほかのたまをみう  
あふひ、これをたづぬあふ、またかのおあおかべのああ  
ふありあをみだあたり、かくたまをかくすものは、  
たれのあわざあるやと、まをつけてせんさくあた  
るところ、まづたくたまのたうぞ、ほかのであのか  
ひおきて、よくあつきたるかさざみて、このとりあご  
とだいふとびのぼり、たままきくは入りてかべのあ



あへかくもたることを志れり。こゝふおいであるお  
 はわかものをうたがひて、かれふがいをくはへるこ  
 とを。こゝろのうちよりさのどくぬおまひて、さつ  
 そくかれをよびもどる。はあはだあんせつふとりあつか  
 ひ。これよりはみだりふひとをうたがはざりあどぞ  
 ○とつみやうだいのこむすめのはあま  
 とらみやうだいは。まゝさはらのかたちふあて。そ  
 のうへふのぼるべきはあじあり。これをかい入んあ

るいはみづつみのふさふさふつくり、まいよこのうへ  
 ふとらあびをともあふのり茶あてやちゆうふこれ  
 をめあてとあま。あまりいそちかくのりよせて、ふね  
 をいはあるいはかくれずみのりかけ。あんせんふお  
 よばあめざるやうのまうけあり。こゝふとらみやうだ  
 いのあるこまありて。そのあまふいれんといへ  
 るこむすめ、ちくとまふちゆうきよあたり。ちくは  
 すあひちとらみやうだいのはんふんみて、まいよこのと

うみやうだいみひをとすことをよくげふとせり、  
 まがるみこのまゝみは、たゞこのとうみやうだいみ  
 つげるひとほかみひとりあるのみふて、べつみぢ  
 ゆうきよするひとあく、そのうへいれんのほ、おや  
 はかつてうみおはまりてみうせたらば、このむ  
 すめのとすたらとするものは、たゞこれといぬと  
 のほかはあらざりけり、おれどもいれんはその  
 ちくのあいふてせめてこれをたのそみとあそ

おたり、あるひてくおやとともぐとうみやうだいをば  
 んせむひと、こをさりあわば、てくおやはまちへゆ  
 きほかのひとをやとひいれんため、ふねふのりて  
 ゆかん地するとき、そのむすめみひるすままで、ひとり  
 このまゝみのこと、おくから、さびまは、おまはざる  
 やとたづねけるふいれん、いとさびまは、はござりま  
 せん、わたあはいは、うへへのほつたり、あるいはす  
 あのおか、でいまをひろうたり、そらのくもをあが

め たり、あそんてをりまをやう、しふからておやほ  
こぶねふとりのり、かしまやうふり、はかりまへたつ  
たるまををさきてこきゆきけり、あとふむすめは  
たぐひとり、ほんをよんでねたりまが、そののち  
またいはのうへふのぼり、ふねのゆき、をみてを  
るをりまを、てんきのちやうたうまふおほり、くろく  
まはひをかくま、かぜはげまふきいたる、あまはい  
そのうへふまきあがりてとうみやうたいのちとまで

うちよすれば、いれんははやくうちふいりて、とうみ  
やうたいのうへふのぼり、びいどろのまどをすかして  
あらたつあみをみわたるあがらふありのふんぎを  
おもひ、またゆがちくちかへりかげ、このあらまふ  
あふふあらずやと、あんどわづらひをるうりふ、かぜ  
はすこまふもふきやまず、ときのたつふまたかみて  
ますくはげまふあれまさり、そのうちはやくちみ  
はくれて、とうみやうたいのちとまびを、とせすどこくふ

あそんてをりまをやう、しふからておやほ  
こぶねふとりのり、かしまやうふり、はかりまへたつ  
たるまををさきてこきゆきけり、あとふむすめは  
たぐひとり、ほんをよんでねたりまが、そののち  
またいはのうへふのぼり、ふねのゆき、をみてを  
るをりまを、てんきのちやうたうまふおほり、くろく  
まはひをかくま、かぜはげまふきいたる、あまはい  
そのうへふまきあがりてとうみやうたいのちとまで

ふりければ、いれんは、いまだ、あぢさいのこむすめふ  
てがつてとうみやうをともせあことあらざりあかども  
つねとーうこのするあよさ、を、みありたること、あれ  
ば、ともあひをともさんことをおもひて、つねふちく  
のするがごとくらんぷをすあ。すりつりぎをすりて  
ひをともせば、後のほのひかりか、やきて、あらうみを  
てらすをみて、おぶぐんよあとおもひつくと、それより  
いぬとこねこふれいのとほり、ゆふめをあたへか

つみづならも、あたためて、かみふれいはいをああ、ぬや  
ふいりてうちふあ、げれど、あらあのことのさあ  
かくり、ふありのあやうさを、おんがへて、ねふられず、か  
いあやうを、みわたあ、たるところ、あみのうへいちめん  
ふ、さりのたち、こめたるをみて、かくては、とうみや  
うのひかりも、みえが、あかるべあ、とて、たぐちふお  
きいでて、ふおぐべる、ふおぐべる、は、とうみやうだいのひか  
り、さりふへだてられて、みえざる、とき、これをひき

あらまて。ふふのりふ あやうき げまよ せ さらまむる ため  
ふりそあへ おきたる つりがぬ あり)を およそ いちぶん  
の あひだ ひき あらま。あはま やすみ ては また ひきあらま  
する うち ふのきりも やうく ふ はれ て、そら ふ ぼま  
のかくやきいどを かほ。この むすめ は ふたごびぬ  
やふりりて いぬ たり けり、それ は させて おき、いれん  
の ち、は ことほど より むすめ の こと を あんま あら  
まの さあか ふふぬ を いたまか の あまみ かへらん

と せま を とまたあふ とごめ られ て、よぎあく とごまり  
わ たりまが、ひくれ ふ いたり て とうみやうばい より ひが  
げの か、やき いどを を みて いれん が ぶあん ある を  
ま、かつ かいぐ ちくも とうみやう を とせま こと  
を うれあく おもひ。また ふおぐべる の ひぐきあ を き、て  
は、いれん の けあげ ある はたき を かんま その よろ  
こび いか あり けん。おくて その よくてう ふ いたり て  
あらま は すぐ ふ あぢ ければ、ちく は いそぢと ちま

みかへり。いれんのぬやみゆきてみる。おのまだよく  
ぬぶりにありきかばやがてそのかほみすれつ  
きてむすめのゆめをおどろかぬ。

○えぬりのふんぎやうのはあゑ

えぬりといふむすめ、ふらんすのをぢより。いとよきふ  
んぎやうをもらひ。いまだふぬかふあるかあらざるう  
ちのことあるが、かのふんぎやうをいだいと  
うらま  
んのいまだんふたつておたりきときまりといへる

おいたるをんあ、このところへきかへり。きありのう  
へふこあうちかけ(げんぶん)このところふまりの  
みのうへをとけりさえてようふくあてことか  
ければこれをりやくせり(えぬり)のふんぎやうをみ  
てそのりつばあるふおどろきかつこれをほめつ  
おのれもおさふかりきとき。ふんぎやうをもちてあ  
びあことをおもひいだせり。えぬりはまたわがみ  
だふよくば、ひとはいかにあるもかへりみざること

ふ、あらず、あて、まりが、おのれの、ふんぎやうを、はめ  
て、おる、うち、ふ、さ、まりの、まご、むすめ、およせはいんの  
こと、を、ぶ、も、ひ、て、え、ぬ、り、およせはいんは、せ、き、で、お、る  
か、つ、た、が、こ、の、ご、ろ、は、い、か、く、で、す、ま、り、とんと、ま  
だ、あ、か、ぐ、あ、ま、せ、ん、や、ぶ、ん、ふ、あ、り、ま、す、と、た、い、さ、う、わ  
る、う、ご、ざ、い、ま、す、ちか、い、うち、ふぼ、す、とんへ、つ、れ、て、ま、の  
り、ま、あ、て、おわ、る、れ、ん、さん、ふみ、て、い、た、ご、か、う、と、ぞ、ん、ご、  
て、を、り、ま、す、それは、それ、みあ、て、この、ふんぎや、う、の、

い、あ、や、う、は、たら、おり、うか、う、で、ご、ざ、い、ま、あ、や、う、ぬへ、え、ぬ、  
り、わたあ、は、ふんぎや、う、の、い、あ、や、う、の、こ、と、は、き、く、た、く  
あ、い、おせ、おま、へ、は、およ、せ、は、いんさん、を、こん、ふち、わる、れ、  
ん、さん、ふみ、せ、ま、せ、ん、か、その、わけ、が、き、く、たら、ご、ざ、い、  
ま、す、まり、いと、さま、い、ま、わた、あ、が、もつ、て、を、り、ま、す  
よ、り、よけ、いの、かぬ、が、いり、ま、す、から、えぬ、り、かぬ、は、ご  
れた、けい、りま、す、か、まり、たい、ぶん、たか、が、おほ、きう、ござ、  
い、ま、す、すく、おく、とも、ごえ、ん、の、かぬ、が、いり、ま、す、やし、

モウ たいしてい ながく やすみ まゑ たのどりや おいとま  
 まうゑ まゑやう トつみ とつゑを もつて たち あがり  
 ていへぢ をさゑて、かへり ゆく。あと ふえみり ほゑ  
 ばゑの あひた、およせはいん が ことを おもひて、うつとり  
 とゑて たち おたりゑ が、たちまち いへふ はありい  
 りて、ほくの もと ふゆき おかアさん。この ふんぎやう  
 は めたゑ の だ から、めたゑ の おもはく せほり ふいた  
 ゑても いこの でございます ぬへ。はく そりや おまへ

の すきふゑ たが いこの だ ト いふ ふより えみ  
 り ほの かげを いはず、すぐと かわりもの を うちか  
 づき、かの ふんぎやう をてふ いたきて、うわぴつと  
 いふ ひと の ちてあそび みせを さゑて はあり ゆきける  
 ふ。うわぴつとは これを めて、おまへさん の もつた  
 の は、たいさう いく ふんぎやう が ぬへ、コリヤ やすねふ  
 えて も、おまへさんが もの は あり まゑやう。えみり  
 ぴつと さん、おまへ そう おくもひ なら、この ふんぎやうを



おねたお まうす から。いくらのかねをねたおみくね  
ますか うめつと「はんね ふう たらひ まちやう えり、こえ  
んでうり まちやう、どうかこれをつてくださいま  
せ、わたおはほがみぜひのりやまがごひますから、  
このふんぎやうはねたおのおはくごほりふるて  
まうのでごひます。うめつと「おまへさんはかね  
ていごおこだとまつてぬますから、わたおはそ  
ねをあげつてこえんのかねをねたおまちやう、そう

あていまからひとつきのうちみあらばいつで  
まもとのねんでかへえてあげ まちやうトごえん  
のかねをねたせば、えみりはこれをつて、  
まりのいへふはちりゆき、すでふそのいへのかど  
ふきたねば、かのぢよせはいんのせくこゑきこえて  
まりもいへよりいできたりあゆむ。えみりはすぐ  
ふごえんのかねをまりのてのうちにわたお「こ  
のかねをもつて、こんぶちのうちにまよせはいんさん

をめるれんさんふみておもちひあせへといふを

さくてもまりはえみりのあんせつあるをかんたうれあ

あみだのせきあへずあはまはものもいひかぬあ

えみりがのぞみのとほりすべるとやくそくあそ

のとほりああたるところいあやもよくこころをもち

わてりやうぢをくはへあからわづかのあひたふはと

んどこころよくありてえみりがふんきやうをうあひ

あよりたごひとつきのほごふはやあよせはいんのせ

きはぜんくわいふおよびけんがうぶあみありあをき

くてえみりのよろこびいあありけんたとへごあふえん

のかねをつひやすともこのうれあさみはかへが

たあとおもひえみりのちあはくもこれをさくて

むすめのにぎやうぢやうをあやうぶあたりとぞ

○あるせりやこくのさいばんやくのはああ

いつせんはつびやくごあふねんあるせりやのくみふぼうか

すといへるかあらありてこのくみあふああゆのぞ

んみんをまはしあつけんいおざりあくるころのまゝ、ふ  
 せいのをあせり。このときかのぶふおゆのひとつ  
 をつかざれるさいばんやくふ。はあはだめいほくあるさ  
 いせんをするひとありて。むかあひをろもんゆうふひ  
 とあきさしちありといひをるよあをまきて。まこと  
 ふひやうばんのごとき加われみづからのことをさ  
 いばんさせて。ころみんとおもひたちて。たごびとの  
 ごとくいでたちて。ちろんへいたいのけいせいもあ

くきんおゆのひともつきそはずまらびやうまふうち  
 のりて。かのさいばんやくのすめるおやうがをさあて  
 いでゆきけるが、すでふそのおやうかのいりうち  
 ふいたりあときひとりのかたわものありて、ほうかすの  
 すそをとらへ。ほごころをこひければ、ほうかすはこ  
 れふせふをあたへければ、ごもろあほかのかたわものは  
 ほうかすが、すそをはあたねば、ほうかすは、あはこあた  
 ふほごころをあらんぜ。たふこあたはどうあてわあ

をばあさあいか こまき「いやうでござい」ますがおきや  
うふあんぢはあんぢのきやうだいみほごををあた  
ふるのみあらず。あんぢのちからおよぶところのこと  
は、かあらずあんぢのきやうだいのためみあすべふ。と  
ありますではございませんか ぼうかす「さやうく。それ  
からこあたのためみどうあやうか こまき「わたくる  
はこのやうふあまがふあいうふござい」ますか、  
ひとのあまもとやうあ。うま。らくたふごのあまかと

を。いざりまはりまするが、まことみげんのんでござい  
ます。ことみいままぢのうちはいちがたちまあて  
たいさうひとよりあまてござい」ますから。わたあ  
やうふかたわものあんぢア。とてもまのられませんから  
どうかおたすけあさつてくださいませ。ぼうかす「どう  
あておまへをたすけまあやう こまき「ああたのおあと  
へのせてくださいませ。いちばまでまのりまあたら。そ  
こみわたくるはちとようかありますから。そこで

おろろあゝあつてくださいます。ほうかす。そうか。それ  
はやすいことだ。トいひあから。みづからうまよりあり  
かのかたわものをばからくあておのれがあとみ  
のせてのりゆくほごめ。ひとめあそのあやあさな  
まふめをつげたりかくてか。のいちほみいなり  
ければ。ほうかす。サア。このかおまへのようがある  
と  
ころだらう。こぞき。ちやう。ほうかす。一そん。ありあせへ  
こぞき。ああた。おぞん。ありあさい。ほうかす。ソリヤ。さう

いふわけだ。こぞき。うまをわたあふのこと。おき  
あさい。ほうかす。うまをのこあ。おけた。ソリヤ。あんの  
ことだ。こぞき。うまはわたあのものだ。もの。さいはひ  
われ。かか。のあだかひ。さいはんやくの。さやうか。みさ  
やはあ。たから。このくごをさばらて。もらひ。まあやうの  
さだめて。わたあ。がから。で。こぞき。まあやう。ほうかす。こ  
のうま。が。わあ。の。た。もの。どう。あ。て。さい。はん。やく。が  
そん。あ。さ。ば。き。を。する。もの。か。こぞき。われ。ソリヤ。うま



をかひやくあやうのつれさりたることふて、かの  
かくあやはこれをかへさんことをこへど、ひやくあ  
やうはおのれがつまふりといひ、はりて、そのつま  
もまたかたいぢふたまつてをりて、みづからいつれ  
のつまともしはず、このさばきはあはだむつかなくみ  
えたりけり、さしばんやくはさうほうのいひたてをよく  
くきくて、まばらくかむがへあたりまが「そのをんあ  
を」とめおいてりやうふんはひやくあやうとうやくあよ

まのれトいひわたさければ、かのひとくはおのれ  
おのれれいをあきてあきぎぬ、さてうぎのひと  
くをよびいたるが、これははげものをさばくひ  
とと、あぶらうりのさうろんあり、あぶらうりはあぶらみ  
まみれ、げものをさばくひとはちみまみれたるが、  
げものをさばくひとのいふは「れたくあはこの  
ひとのみせへ、あぶらをかひみまわりまゐて、その  
だいじつをばらみますとまゐるて、わたくあのはらふ

からてしつばいのせむをつかみたまふたところ  
 このひとはせむみぬがくれまふたとみえま  
 えて、わたくまのてをつらまへまふたから、わたくま  
 はさけびまふたれど、いつかうはあふませず、そのま  
 たらうおんやくまよへまわりまふてございませう。どら  
 かございだんをおぬがひまふます、このとほりわた  
 くまはわたくまのせむをまつてございませう。あの  
 ひとはわたくまのてをつらまへてございませう。

ふとあぶらうり は「このをここはわたくまのみせへ  
 あぶらをかひまわりまふたからとつくりへあぶら  
 をいつばいつぎまふたとき、きんをりやうがへする  
 かとまうるまふたから、わたくまはかくまをさがさ  
 てせむをてふいつばいとりたるまふて、これをわた  
 くまのみせのこまかけへおきまふたところ、このを  
 とこはわたくまのせむとあぶらをまつてみげだふ  
 まふたから、わたくまはこのをこのてをつらまへ



まあて、ごろぼうに、ごろぼうだと、さげび、まあたけれど  
 も、いつかう、とんちやくも、いたる、ませず、せふを、もどる、ま  
 せん、から、おんかみ、の、おせわ、あります、ので、ごさい  
 ます、ごう、か、よろしく、ごさい、ばん、を、おはが、い、まう、を、ます、ト  
 り、あ、から、さい、ばん、やく、は、ふ、た、く、び、お、の、く、の、う、う、ま、や、う  
 を、くり、か、へ、あ、て、い、は、あ、め、けれ、ど、い、づ、れ、も、い、つ、て、ん  
 の、ち、が、ひ、あ、ら、ざ、り、あ、か、は、ら、を、ば、ら、く、か、ん、が、へ、の、た、り、あ、が  
 〓、その、せ、み、ご、ご、へ、と、め、お、い、て、り、や、う、ふ、ん、と、も、み、や、う

て、う、た、う、や、く、あ、よ、へ、ま、わ、り、で、る、や、う、い、た、せ、ト、い、ひ、わ、た  
 あ、けれ、ば、け、た、の、を、さ、ば、く、ひ、と、は、せ、み、を、さい、ばん、やく  
 の、そ、ば、へ、お、き、り、や、う、ふ、ん、と、も、れ、い、を、あ、あ、て、あ、り、ぞ、  
 さ、ぬ、さ、て、こ、の、た、び、は、ぼ、う、か、す、と、か、た、わ、あ、の、と、の  
 さ、ば、き、ふ、あ、た、り、けれ、ば、ほりあす、わ、た、く、あ、は、あ、ん、ご、く  
 より、ご、た、う、ち、へ、の、り、ま、あ、た、も、の、で、ご、さい、ま、す、が、  
 ご、だ、や、う、か、の、い、り、く、ち、ふ、て、こ、の、も、の、み、で、あ、ひ、ま、あ  
 た、と、こ、ろ、か、か、り、よ、く、を、ま、う、あ、い、ひ、ま、あ、た、か、ら、せ、う、く

つかはる まゝ たゝかる ところ まちを とほつて まのり  
 ます あひだ、わたくゑの あとへ のせて くれる やう、ひ  
 とだちの あかふて ひとふ ふまれる からと まうゑま  
 ゑ たゆゑ、のせて つかはる まゝて、いちばふて おり  
 よと まうゑ まゝ たれど、いつかう おりませず、かへつ  
 て おのれが うまた といひ まゑて、つひおはごさ  
 ばん ふあづからう、そうする と うまは あゑの ふぢゆう  
 あひとのものだと、おんばきがある だらうと ござ

あやう ふう まうゑ ます ので ござい ます こゑき おかみさ

ま おきく あされ てください ませ、わたくゑが いちふよ  
 う ぶごさい まゑて、うまふ のりて ぼのり ませ たと  
 ころ、この ひとが みちばた ふごさつて、たいさう つかれ  
 た やうすで ござつ たから、いちば まで いつまよふの  
 りて いき まゑやうと まうゑ まゝ たと ころ、たいさう よ  
 りごび まゑて、さして いちば までの つて まわり ませ  
 が、とんとうまから おりませず、あまつさへ この う

まはめがうまだといひつゝのりまずから、いたるか  
たかごさいませず。ごさいばんをうけやりとまうゑて  
まかりでたこと、ごさいますトいひたつるふよ  
つて、おのくのいひたていよくちがひこれふきだ  
んきせいのをふさゑめ、あらばくかんがへぬたりゑが「そ  
のうまをこくへとめおいてりやうふんともみやうて  
うたりやまよくへまかりであるやういたせトいひわたせ  
ばりやうふんともありぞきけり。かくてよくてうふい

たりければ、せうふんのほかふさいばんをきかんと  
おほぜいのひとごさいばんをよみあつまれり。おかるとき  
がくゑやとひやくゑやうとはだいくちみよひいだされ  
たるところ。ごさいばんやくはがくゑやふむかひ、このを  
んふはそのほうのさいだから、つれてかへりふせ  
へトいひわたさ、またまたやくむむかひてかのひや  
くゑやうをゆびざゑ、あのものをごぶふむちうてトい  
ひつくれば、またやくはそのとほりみおこふひ、がくゑ

やはそのつまをうちつれてさりぬ。そのつぎ  
 はけものをさばくひとと。あぶらうりをよびだるたり  
 そのときさいばんやくはけものをさばくひとふむかひ  
 「そのほうのかねをうちかへれ。どつふこれはそ  
 のほうのものだ。あのをこのものではあひ  
 ぞ。トいひわたる。またあたやくふむかひあぶらうりをゆ  
 びぎさ」このものをさごあぶらうりてトいひつけけれ  
 ばあたやくはめいれいふあたかひあぶらうりをむちう

ち、けものをさばくひとはずむをえてよるこんで  
 さりぬ。たいさんはんのさいたんふおよびてぼうかすと  
 かのかたわものとするみいでたるところ、さいばんやく  
 はぼうかすふむかひ「そのほうはみぎつきいうま  
 のうちふてあぶんのうまをみわくるか ぼうかす「た  
 るかふみわけますトいふからさいばんやくはまたか  
 たわものふむかひ」そのほうはきうだ こそき「たまた  
 しみわけます。さいばんやく「それふらこのほうふつ

てこのトまづぼろかすをつれておほいあるうまや  
ふりつゝおぼろびたるみぢつきのうまをみすれ  
ばぼろかすはおのれがうまをさあければさいばん  
やくよま〜それあらまとのところへいそそ  
のほうのおひてまこへおこせ〜いひつくれは  
ぼろかすはそのとほりをかのかたわものふりたふれ  
ばかたわものはらりあからかいらいでうまやふいたり  
あかめばやくまのよまをこありければさすこを

のいうよすることかあかのかのうまをさあけれ  
ばさいばんやくよま〜まとのところへか入れ〜い  
ひわたあておぼろびはらみよまのさあみかへりか  
のかたわものいたりるときぼろかすふむがな〜かの  
うまはそのほうのうまたつれてかへるがいく  
〜いひわたあ。またあたやくをよびてかのかたわも  
のをむちうてといひつけたり。あたやくはめいふあ  
たがひてかのかたわものをむちうち。ぼろかすはその



いふくゑ、またほうかすのでをすひて、おはかふいた  
くぞんきやうをあせば、ほうかすそのほうか、こんみち  
みつのくゑをさいばんいたあためげは、どういふ  
ものた、さいばんやくいづれもむつかあしくゑで、ごんき  
また、あふたさまは、わたくゑがやせんいちや、この  
ことふついで、ごんきかんかへたらうとおぼあめあた  
で、ごんきまさやう、ほうかすいかにふも、ごんきさうサ、さいばんや  
く、ごんきわたくゑは、ごんきはやくかのをんあをよび

また、おはかふ、わたくゑのすみつぼをあらはせ、すひ  
をいれかへさせ、またたところ。かれはすみつぼから  
わたをとりだあ、すみつぼとわたとをあらひ、また  
そのわたをすみつぼへいれ、また、あたらゑい、すひ  
をいれ、また、たやうす、あかく、すひやつ、へん、このこと  
を志、あれたもの、とみえ、また、た、もゑ、ひやくゑやう  
の、つまで、ごんきまた、たら、すみつぼあごのことは、あ  
らか、はづは、ごんきませんから、あのをんあは、かくゑや

のさしふち紅ひあるとけつてし  
いへばぼうかすはうちうあづま  
たシテかのぜふのいちぢやうは  
さまはかのあぶらうりのきもの  
らだらりてごさつたいをどらん  
ぼうかすいかにふもそのとほり  
わたくははそのぜふをばみづの  
きまたそれをこんてうみまた  
ところみづの

うへみはすこもあぶらのたまが  
ませふんたもあもとからかの  
ものでございまたたらあぶら  
ぬばありませんそれがさう  
んでまげものをさばくもの  
ふちがひがあいとけつていた  
ばぼうかすはかんえのやうす  
るほごそれとほりたらシテ  
このほうの



うまは さいばんやく これぬはたいさう ちんぱいつかま  
つりき志たのこんてうまでもけつだんが できませふん  
たのぼうかす 一かのかたぬものはおはくひうまのふ  
かでこのうまがそれだとえさくふんたかさい  
ばんやくいすあのものはずぐまさるまゑた ぼうか  
す それあらは どうあてかのものはうまのぬあで  
あといふことをあつたのだ、さいばんやくいすあ  
かたさまをかのものとひきわけてうまやへおつれ

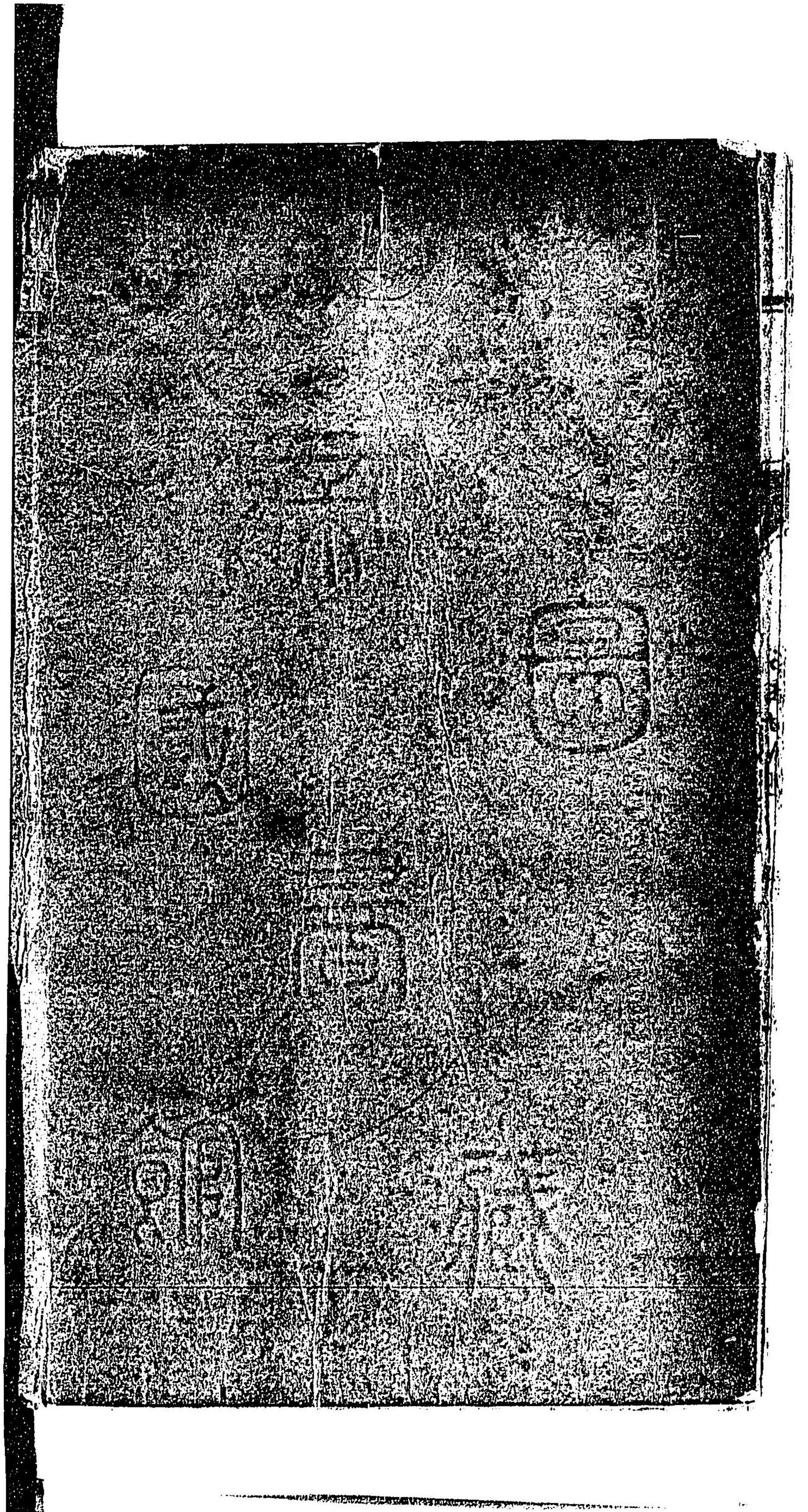
もうおたのは、ああたさまがうまを ごぞんぶか ぞぞ  
んぶであいかとまうす ことをみまゑたのまや  
ごぞいません。うまが ああたさまをぞんぶてわるか  
のあいかとまうす ことをみまゑたのでごぞいませ  
す。さてああたさまが、かのうまのそばへごぞい  
たとき、うまはああたさまのはうへすりよりぬく  
をうまろのかたへたを志、さもうれ志、さうふいふ  
まゑたが、これふひつかへかのかたぬものがうま

のそばへまわりまゐてうまをさはりまゐたらう  
 まはすぐとはぬたゑまゐた。そこでわたくしはあ  
 なたさまがうまのもちぬきでしらせられることを  
 げつていたゑまゐた。いへばうかすはゑばらく  
 かんがへぬたりゑがア、そのほうはごうもさうち  
 のすぐれたものだ。おまへはわゑのやくめふあつ  
 て。わゑがおまへのやくめあつていくのだが、  
 おまへはとうりやうのぬうちはきつとあるが、わゑ

はとてもおまへのかほりふさいばんのやくはつと  
 まるまいヨ。

ぜんとものがたりみへんゑものまきをほり

69  
2  
136



69

135

ありやまひらくやくす  
あせんとものかたり

四